

東地域まちづくり協議会だより 第18号

東地域まちづくり協議会令和3年度の総会中止

東地域まちづくり協議会 会長 大嶋 充

6月1日に予定されていた「東地域まちづくり協議会」の総会は、新型コロナウイルス感染予防のため、昨年度につづき今年度も中止となりました。

総会に替わる措置として、令和3年度の総会資料を役員の皆様にお届けさせていただきました。

本号では、総会資料の主な内容について、事業計画を中心にお知らせします。「東地域夏季ふれあいラジオ体操」は、昨年は新型コロナウイルス感染防止のため中止としましたが、これまで3回実施し、東地域まちづくり協議会の中心的な行事としてこれからも続けていきたいと思えます。今年度も、現在のところ、新型コロナウイルスの感染状況を見ると困難な状況です。このことについて、6月29日（火）「NHKの夏期巡回ラジオ体操」の招致について、再度市長に要望書を提出しました。その話し合いの中で、「氷見市制70周年」を冠として受け入れを目指そう、ということになりました。ご承知のとおり、2022年（来年）が市政施行70周年となりますので、是非、招致活動に力強く取り組んでいただきたいと思います。コロナ後の明るく健康的な行事として、皆様といっしょにその実現に向けがんばりましょう。



◇野口朋寿、さんの紹介

野口朋寿（写真）さんは、これまで地域おこし協力隊員として、3年の間私たちといっしょに活動してくださり、このほど任務を終えましたが、これからも氷見市で活動していただけることになりました。これからも東地域まちづくり協議会の役員として、いっしょに活動してくださることは大変心強く思います。



ここで、野口さんの地域おこし協力隊員としての実績の一部を紹介したいと思います。野口さんは、香川県の出身で、市内で魚の革を使ったフィッシュレザーの開発と商品化に精力的に取り組んでおられます。

このほど、2020年度の富山県地域おこし協力隊表彰制度により、見事最高の賞である「グランプリ」に輝き、新田知事から表彰されました。

ここで、野口さんからのごあいさつを紹介いたします。

ご あ い さ つ

野口 朋寿

この度、地域おこし協力隊としての任期が3月末で終了となりました。3年間の間、実に多くの方に支えられ、活動させていただけたこと、心より感謝申し上げます。

任期中は、東地域まちづくり協議会の皆様の活動にご協力させていただきながら、「さかなの町氷見」を全国にアピールすべく、氷見で獲れたさかなの革「フィッシュレザー」を活用した取り組みを行ってきました。

お陰様で、沢山の素晴らしい出会いに恵まれ、この3年間は私の人生でかけがえのない時間となりました。香川県出身の私は、たまに氷見に来た理由について聞かれることがありますが、私にとって人とのつながりが、今氷見にいる理由だと思っています。

そして、今後も東地域まちづくり協議会の一員として活動することとなり、「フィッシュレザー」の取り組みも継続していきます。引き続き頑張っ^{がんば}て参りますので、今後ともよろしくお願ひ致します。

廃棄されるはずの皮を加工し、革製品として新しい価値を生み出す。野口さんのやっていることは、まさしく地球環境にやさしい持続可能なものづくりなのです。「食べるためにいただいた命を無駄なく使う。命の大切さ、海の恵みのありがたさ」を私たちに教えてくれているような気がします。